

教育心理学教室教官の研究状況報告

研究経過報告 ——'95年秋～'96年夏——

小 嶋 秀 夫

[研究活動と成果： 発達・家族・歴史・文化・比較]

1. 日本発達心理学会第7回大会でのシンポジウム「発達研究への比較文化・文化心理学的アプローチ」に、「文化心理学から見た発達研究」という題で話題提供者となった(1996年3月, 埼玉県県民活動総合センター)。
2. 以前に受理されていた次の論文が, 2年半以上経過して漸く現れた: Kojima, H. Japanese childrearing advice in its cultural, social, and economic contexts. *International Journal of Behavioral Development*, 1996, 19, 373-391。これは, 日本の子育て論を, それが展開した17世紀半ばから現代までのコンテクスト中に位置づけたものである。その中で少し説明し, 別の印刷中の論文でさらに詳しく提示した私の概念, Ethnopsychological pool of ideas (EPI) は, すでに複数の外国の研究者が取り上げている。
3. 桑名日記・柏崎日記についての短い論文が, 英語からドイツ語に翻訳された: Kojima, H. Zwei japanische Erziehungstagebücher aus dem 19. Jahrhundert. In D. Elschenbroich (Hrsg.), *Anleitung zur Neugier: Grundlagen japanischer Erziehung* (S. 162-172). Frankfurt am Main: Suhrkamp Verlag, 1996. (Übers. von D. Elschenbroich)
4. ケベックシティ(カナダ)で開かれた国際行動発達学会第14回大会でのシンポジウム, 「歴史的発達心理学」で, 日本の18・19世紀の生涯発達の考えに関する発表を行った: Kojima, H. Japanese views on lifespan development from the 18th to 19th centuries. Paper presented at a symposium on Historical

Developmental Psychology at the XIVth Biennial Meetings of the International Society for the Study of Behavioral Development, Quebec City, August, 1996. この時期の日本で, 生涯にわたる養いと学びの視点が展開しており, その意味で近年の生涯発達への関心は, 以前の関心の再興または再発見といえることを述べた。なお, この論文はERICに保存されている。

5. 比較に関する私のコメンタリー論文を載せた本が出るところである: Kojima, H. Problems of comparison: Methodology, the art of storytelling, and implicit models. In J. Tudge, M. Shanahan, & J. Valsiner (Eds.), *Comparisons in human development: Understanding time and development* (pp. 318-333). New York: Cambridge University Press, 1996. これは, 1993年春に Carolina Consortium on Human Development の1つの会合に招かれて話したことが契機となって書いたもので, 3つの論文を扱ったコメンタリー論文である。

[その他]

市販誌に次のエッセイが現れる: 小嶋秀夫 対人関係の生涯発達 総合リハビリテーション, 1996, 24(12).

[自己評価]

上記のように, この期間もコメンタリーや論評でお茶を濁してきた面が多分にある。ティームを組んで研究プロジェクトを動かしていない場合, 2年間にわたる職務から来た制約は研究活動に響き, その実際的影響はむしろこれから現れることとなろう。

(1996年10月24日)